



自分はずしの旅

Disidentify Yourself

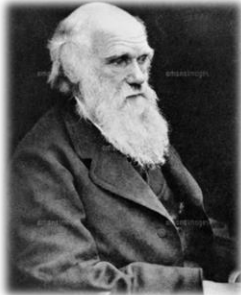
ヤドカリは貝殻の中で自分の身を守りながら生きている。人間も無意識ながら、見えない殻で自分を守りながら、ぬくぬくと居心地のいい空間の中で過ごしたいと思う。でも、それでいいのだろうか？

今回のテーマ“自分はずす”とは、頭の中でかたくへばり付いている固定観念（殻）をはぎ取することを提案するものである。殻の中では、ただの世間常識；世間が認めることのみが幅をきかし、私、永田円了が生きない。

自分の殻にこもらないように、日本では昔から「神」という存在を作って戒めた。神とは、「世の常ならず、すぐれたる徳ありて、可畏（かしこ）きもの」（本居宣長）。神とは、「無である。無とは、すべての束縛を超越し、全てのものの根源となるもの」（夏目漱石）。つまるところ「神」とは、日本的に解釈すれば、「常識を破るもの」である。

どういふ存在が生き残って行けるか

英国の自然科学者ダーウィンは、「最も強いものが生き残るのでもなく、最も賢いものが生き延びるのでもない」「唯一生き残るのは、**変化できる者である**」と言った。人間は幼形成熟（ネオテニー-neoteny）でできる生物である。人間以外の生物は、生殖機能が整った時点で固まってしまい、それ以上心身ともに成熟しない。例外的には犬が幼形成熟が可能といわれる。つまり、人はいくつになっても成長し続けることができる存在なのである。



ガタガタ道は疲れしない

小高い丘の上の真国寺へ至るには、駐車場から幅 5m 長さ 40m ほどの坂を歩かねばならない。このコンクリートでできた平坦な坂道は、タクシーや業者のトラックなどが往来する。あるとき、この道が車で混んでいたため、裏路（幅 1m にも満たさないガタガタの泥道）を上って帰寺した。上りきってハッとした。疲れしない！！平坦なコンクリートでできた坂を上るときは、途中で最低 1.2 度は立ち止まって休む。しかし、このガタガタの坂道は一挙に上れ、おまけに疲れしない。同じ傾斜、同じ距離を上るのに、何故こうも違うのか？

野生動物は 100% 平坦な道を選ぶという。生物学的に、動物は変化を嫌う。可能なかぎり、平穏で何事もなく今の状態を継続したい欲求を持つという。学術的には「ホメオスタシス（恒常性維持機能）」と呼ばれる。人間も動物の一種、平坦な道を選ぶことでより疲れしないはずなのに、何故ガタガタ道のほうが疲れを感じさせなかったのであろうか。ここんところが、私のこの夏の大発見なのである。

人間には他の動物にない、自身の成長や喜びに繋がる**高次の欲求**がある。人間は敢えて困難な道を行くことによって、魂が喜ぶということを知っているのである。変化に富むガタガタ道は、肉体的には疲労しても、精神は疲れしないどころか、エンパワーさえするのである。

この気づきと意識で人生の路を上ったなら、必然的に自分はずしの旅が始まる。そうでなければ、ただ変化を嫌う他の動物の生き方に埋没するのみであらう。

<事例>

宇崎竜雄／自分はずしを続ける
片岡鶴太郎／自分はずしで変容する
蛭川幸雄／熟年俳優に自分をはずさせる
寅さん、渥美清／自分はずしに失敗
007 ショーン・コネリー、自分はずしに成功
ペルソナの発想／ユング語る
妙心寺・小川英爾住職、素の自分で語る
ダライラマ14世／ただのおじさん
分人の発想／平野啓一郎語る
辺見庸／地下鉄サリン事件に遭遇
歌・カータナ／Who you really are



Life is difficult.

生きることは難しい。
だから人生は面白い。
だから、人は成長し、進化する

Life is a series of beginnings.

いくつになっても、それは新しい始まり。
その時点から
「日々これ好日」が展開する

